

ICI 総合センターのオープンイノベーション

Open Innovation at ICI General Center

氏名 岩坂 照之

氏名 Teruyuki Iwasaka

1. ICT 技術開発の目的

ICI 総合センターは、我が国初の総合イノベーションプラットフォームとして 2019 年 2 月に開設されました。一般的にオープンイノベーションが語られる場合、自社の営利や発展を目指した“技術開発の手段”と考えられますが、「社会課題に一手を打つ新事業をオープンイノベーションで創り出す」というのが ICI の事業ドメインです。社会課題”を見つめていることを大前提に、それを社会において実装してゆくのが ICI の役割です。よってここは前田建設が目指す“インフラサービス企業”の象徴であり、当社だけのものではなく、ベンチャー企業や協力会社の皆さんのものでもあります。

* ICI (incubation ; 孵化、cultivation ; 育成、innovation ; 革新の略)

2. ICT 技術開発における技術的課題と対応状況

ICI の計画を立ち上げる際、さまざまなベンチャー企業にヒアリングを行いました。「本当のところは何が足りないのか」「どんなサポートが必要か」という質問に対して、返ってきた答えは「全部」でした。資金が足りない。場がない。お墨付きをもらえない。人がいない。ほとんどのベンチャー企業はこの 4 つ全てが足りていない。この中で「人」というのは、まさしく共創パートナーのことで、自分たちの技術を社会実装する上で missing の部分に当たる「人=企業」のことです。この調査結果を踏まえ、事業をオープンイノベーションでやっていく上で、それを実現するために必要なシステムや仕組みを考えて具現化しています（下図参照）。

3. ICT 技術開発の効果

ICI 総合センターでは、既に複数のベンチャー企業と共創が始まっており、それらの進捗については近々、ホームページや ICI で開催されるイベント等で報告できると考えています。また今後の共創に繋がる、ベンチャー企業や大企業、官公庁、大学など様々な立場の方々との”社会課題”とその解決に関する意見交換が始まっており、それらの中からも共創が生まれることを確信しています。

4. 開発した技術の普及上の課題

今までの事業領域を超えて、さまざまな得意分野を持つ企業と共創関係を結び、さらにはベンチャー企業をインキュベーションして新事業を起こし、社会に対してより良い価値を提供していくことこそ持続的な成長の Seed になると当社は考えています。よってインキュベーションにおいて、ICI が彼らを囲い込むことはありません。なぜなら、ベンチャ

一企業の良さをスポイルして自社戦略に取り込もうとした時点で、彼らの持つ自分たちの技術に対する絶大な自信、強烈な思いとやり遂げる意思、自由な発想やスピード感などといった良さが全てなくなってしまうからです。加えて、直接的な金融リターンを求めるのではなく、事業を通してその付加価値としてのリターンを求めるところも、ベンチャーキャピタルなどとは大きく異なる部分です。

5. その他

ICIは“技術研究所”ではありません。ICI職員たちの肩書も、これまでの「研究員」を廃止して、管理職を「プロデューサー」とし、一般職を「カタリスト」に変更しました。「カタリスト」とは、化学反応を促す「触媒」という意味です。もともと建設会社は“触媒”になるのが得意な業種です。多方面から、いろいろなものを持って来て課題解決するのが建設会社の仕事です。そこを再認識して、具現化するものが建設技術のコントラクトではなく、社会課題解決のコントラクトに変わったということなのです。

所属 前田建設工業株式会社 ICI 総合センター

キーワード オープンイノベーション インキュベーション、社会課題の解決、

